

「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール

JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することをつうじて、稲作農業の多面的機能と、お米・ごはん食の重要性を広く周知するために開催しています。



笑味ちゃん ©みんなのよい食プロジェクト

＜過去の受賞作品＞ JAグループHP(<https://life.ja-group.jp/education/contest/>)でもご覧いただけます。

※学年は受賞当時のものです。

図画部門

第47回内閣総理大臣賞



「みんなで稲刈り」

佐賀県 佐賀県立武雄青陵中学校3年
高森 薫さん

第48回内閣総理大臣賞



「力いっぱい炊きあがれ」

埼玉県 狭山市立山王小学校6年
津久戸 花実さん

第49回内閣総理大臣賞



「おこめのさと」

京都府 木津川市立恭仁小学校1年
山岡 彩葉さん

作文部門

第49回内閣総理大臣賞

「当たり前のご飯のありがたさ」

青森県 青森市立浦町中学校2年

若宮 遙希さん

小学校三年生の冬、僕が人生で初めてお米を研いだ日、弟が入院した。当時の僕は、父の転勤先である仙台市に住んでいた。小学校一年生の弟は母親に注意されながらも、寒い冬の中、毎日短パンで登校していた。そんな日々が続いた時、弟は突然高熱を出し、病院に行く。インフルエンザと肺炎にかかっていた。そして緊急入院することになった。病院は親が二十四時間付き添う必要があった。

児童館のお迎えに間に合わない。母から連絡が入った。僕は一人で児童館から家に帰った。誰もいない家の鍵を一人で開け、真っ暗な部屋に電気をつけ、わざと大きな音を出してテレビをつけた。病院から一旦帰ってきた母に、

「僕にできること何かある？」と聞くと、

「お米研いでくれたら嬉しいけど...」

「うん、できるよ！」今、思えばなぜできたと言ってしまったのだろうか。忙しい母と苦しんでいる弟の為に何か僕にもできることがないだろうかと思っていたからだろう。

「ありがとう、助かる」と言い残し、慌ただしく買い物に行ってしまった。当時、スマホもなく自分で調べることもできなかった僕は、母のお米を研いでいる姿を思い出して、研ぐことにした。

お米はカップに三分の三(合)、家庭科で「すりきり一杯」を習う前の当時の僕は、適当に山盛り三分のお米を取り、「そのお米と水を釜に入れ、研いでみた。母の研ぐような「ジャツ、ジャツ」という音がしない。水が多すぎると気づき、ジャツと水を捨てたら、お米も勢いよくたくさん出てきてしまった。今一度は少なめの水で研いでみると「ジャツ、ジャツ」という音になり安心した。一体これは何回やるのだろうか。とにかく何度か研いで水をを入れて、捨てて研いでを繰り返した。十分は経っただろうか。十回以上やっても水には少し白い色がついてくる。(これ、いつまでやるのかな)いつまでも少し濁る水を見て、真冬の台所で冷たい水で手が真っ赤になり、水を流す度にこぼれていくたくさんのお米を見ながら、僕の目からも涙がこぼれた。

母がやっと買い物が戻り、僕の姿を見た時、僕の冷たい手を母は両手で包んでくれた。「ありがとう、ごめんね。」と泣きながら包んだ母の手も僕と同じくらいに冷たかった。なぜ、母は泣いているのだろうか。もしかして、弟の具合が悪いのだろうか。怖くて聞けないまま、頭の中ぐるぐる考えていた。

「ちゃんと教えてなかったのに、よくできたね。さ、炊けるまでの間にお風呂に入って。」母が買ってきたそうざいと僕の初めて炊いたご飯で食べた二人だけの晩ご飯。いつも父といる弟がいる食卓が今日はシーンとしていた。お米はいつもより固く、おいしくなかった。母は「おいしくできたね」と言った。ご飯がおいしくなかった理由は他にもあることは当時の僕でもわかっていて、

弟の入院は七日目に突然終わった。入院中だった青森の祖母が亡くなったのだ。弟の病院に事情を説明し、安静にすることを条件に帰って退院し、青森に向かった。祖母の死に目に会えなかった僕は、疲れと悲しみでいっぱいだった。こんなに悲しい時でもお腹は減った。誰かが用意してくれていた塩おにぎりを食べた。こんな時でもおにぎりをパクパク食べている弟を横目で見ながら、食欲が出た弟を見て嬉しく思った。久しぶりに家族揃って食べたおにぎりはとてもおいしかった。家族四人が当たり前ではなかった七日間を経て、当たり前前に食べられるご飯のありがたさとおいしさを知った。

今は時々手伝いでお米を研ぐ。お米を研ぎながら、僕は当たり前前のように、たさを時々思い出している。これからもおいしいご飯を毎日食べられますように。

応募総数

第49回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画コンクール

作文部門:27,609点 図画部門:41,104点

第50回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 全国審査会／表彰式日程

【全国審査会】 作文本審査会:2025年11月11日(火)
図画本審査会:2025年11月14日(金)
会場:JAビル(東京・大手町)

【表彰式】 日時:2026年1月10日(土)
会場:日経ホール

